

どっこい生きてます!



筑波大学4年の医学生6人が先頃、潮騒ジョブトレーニングセンターに研修で来所され、依存症の回復支援活動の一端に触れて頂きました(3ページに記事)。医者の子として将来の活躍が期待されるエリートの皆さんですが、研修では熱心な質問があり依存症の世界に興味を持たれた様子です。日本では依存症を専門とする精神科医はほんの一握りなので、ぜひこの分野にチャレンジしてもらえれば有難いです。

2017

7

言葉による恩恵(希望)と裏切り(絶望)について



また暑い夏がやって来ました。私は、この時期が苦手です。罪深く、消せない過去を物語る全身の入れ墨が皮膚呼吸と発汗作用を阻害するためです。同じように任侠道に身を置いた仲間達も、彫り物を隠すために真夏でも長袖シャツは必需品です。いくら過去の躓きを悔いても、世間はそう簡単に「許し」を与えてはくれません。これも自業自得でしょうか? でも有難い事に、今では潮騒 JTC も関連施設の多くが県共同募金会等の助成でエアコン導入が進み、夏場も快適に過ごせるようになりました。活動の柱であるミーティングもほぼ快適な環境で取り組んでいます。そこで今回は、ミーティングで吐かれる言葉の世界について考えます。

ご承知のように私はダルクで救われました。先行く仲間と同じように、12ステップの持つ不思議な霊力によって回復に導かれ、覚醒剤やアルコールに頼らない新しい生き方を手にできたのです。私固有の体験かもしれませんが、12ステップが説く豊穡な精神世界を受け入れられたのは、私の中に言葉に対する謙虚な姿勢が生まれていたからだと考えています。かつて私は獄中体験を踏まえて綴った俳句作品を新聞社に送ったところ、これが入選作となり紙面に掲載されました。これを機に韻文の世界に魅かれるようになり、特に俳句は自分に合った表現手段として本格的にのめり込みました。私に(短詩形)文学の素養があるかは分かりませんが、「こんな形で自分のマイナス経験が生きるんだ」と自信を深め、以後は自分の内面を見つめる重要なスキルとなっています。仲間達にも俳句作りを推奨し、本誌の潮騒俳壇として定着しています。もしかして、俳句との出会いがなかったら私の回復はなかったかもしれません。

ところで私達アディクトは、一般の人よりも言葉による恩恵(希望)と裏切り(絶望)を深い所で経験しています。ほぼ例外なく裁判では「もう2度とクスリやアルコール、ギャンブルには手を出しません」と反省を述べ、獄中でもその誓いを強くします。でも、一歩塀の外に出れば悪魔のささやきが待っています。多くの仲間がその罠に嵌まってしまい、元の木阿弥となります。依存症の世界では、言葉はまるで自分を試す凶器と化します。でも、運よくダルクに繋がって回復を支える言葉(12ステップ)に出合えば、そして私のようにこれを受け入れる素地が形成されていれば、その言葉が魔法のようにストンと腑に落ちます。万が一スリップの危機に陥ったとしても、仲間達と繋がっているという強い絆と、自分の内面に響く12ステップの霊的な言葉が防波堤になります。

私達にとって言葉は、自分が置かれた環境や状況によって、重くなったり軽くなったり、味方になったり敵になったりと、多様な顔つきを見せます。でも、回復が進めば進むほど根本の所で「言葉は信頼に足るものだ」という確信が生まれます。何度か仲間達に裏切られる場面も経ながらも、その確信はより強固になり、言葉を支える仲間=人間を信じられるようになるから不思議です。どうか皆さん、仲間達の言葉に耳を傾けてください。

(センター長 栗原 豊)



医学生が依存症施設の回復支援活動に理解を深める

「薬物・アルコール依存症からの回復をサポートする民間施設の実態を学ぶ」をテーマに、つくば市にある筑波大学医学部4年の学生6人が6月26日、鹿嶋市の潮騒ジョブトレーニングセンターに来所され、依存症の回復支援の実相に触れて依存症問題に理解を深めて頂きました。栗原センター長やスタッフらとの懇談や関連施設訪問などを通じて依存症リハビリ施設の実態を学び、積極的に質問がありました。一行は受け入れ先の県潮来保健所を通じて実習の受け入れを潮騒JTCに打診したもので、栗原センター長も「ぜひ医学部生に潮騒の活動に理解を深めてもらえれば」と快諾しました。訪問当日は午前10時から午後3時頃まで、潮騒側が用意した濃密な視察研修スケジュールに沿って皆さん行動し、日頃は体験できない依存症の支援活動の一端を目の当たりにして、とても新鮮な印象を持った様子でした。



一行はまず、拠点であるデイケアセンター(潮騒アディクションビレッジ会館)で潮騒についてのDVD映像を視聴してもらい、栗原センター長や農業隊リーダーのヒトシさん、他のスタッフらから施設の概要について説明を受けました。学生の皆さんからは「ジョブトレーニングをして、どれくらい社会復帰できているのか」「入寮している人達の依存対象物は何が多いのか」「プログラムを放棄してしまう中途退寮者はいないのか」「寮生活が基本ということだが、1人部屋はないのか」「施設を建てる際に地元の反対はないのか」「夜間高校の入学を支援の費用は施設側が負担するのか」「入寮希望は平均どれくらいか。それによって施設を増やしているのか」——など盛んに質問があり、依存症に興味を抱いている様子がうかがえました。

この後、一行には潮騒食堂「おらげのかまど」に移動して昼食を取ってもらい、潮騒農場で収穫した新鮮野菜を食材にした定食料理などを直に味わって頂きました。午後はアルコール依存症の仲間が入居する下津施設や薬物関係者が寝泊まりする中地区のナイトケア施設のほか、農業隊メンバーのシェアハウスと猿田農場を見学してもらいました。とりわけ学生の皆さんは予想以上に充実した農業環境に驚きを隠せない様子でした。最後には高齢者デイケア「百寿亭」にも立ち寄り、代表のマコトさんから説明を受けました。そして再びアディクションビレッジ会館に戻り、しばしセンター長らと懇談した後、3階の食堂兼多目的フロアでデイケアの仲間の生活ぶりを自分の目で確認して頂き、研修の全日程を終えました。



終了後に栗原センター長は「依存症はWHOでもきちんと診断基準が示されており、医療先進地の欧米では官民挙げてリハビリ施設が充実・整備されているのに、日本では法的な整備も制度も大きく遅れています。そのため精神科医の間でも依存症の治療を専門とする医師は“変わり者”扱いです。薬物依存症に代表されるように、日本では犯罪の側面が優先されて長く処罰の対象として扱われてきたこともあって医療のサポートが大幅に遅れています。ここに来て国も、やっと少しずつ重い腰を上げるようになりましたが、それだけでなく他の専門分野の医師に比べなり手が少ないのが精神科医の現状です。その中であって、なかなか苦勞が報われない依存症に関心を持つ医師は全国でも数えるほどです。今回の潮騒での研修をきっかけに、将来はぜひ一人でも多く依存症を専門とする医師になってもらいたい」と熱い期待を寄せていました。



ダルクは消防署と同じ、 地域にあってこそ役立つ

連載
第1回

——日本ダルク代表の近藤恒夫さんと言えば、依存症の回復が難産な我が国の風土にダルクを定着させた稀有なリーダーで、「聖に非ず俗に非ず」の独特のスタンスを保ち、一見とらえどころのない存在感でダルクの仲間を引っ張っています。潮騒ジョブトレーニングセンターの名付け親でもあることから、潮騒フォーラムでは毎回ゲストスピーカーをお願いし、折に触れて潮騒通信でも貴重な意見を開陳して頂いています。実は今回のインタビューは昨年暮れに実施したのですが、潮騒の施設概要を紹介する2017年通年企画を優先させたために、半年遅れのスタートとなりました。その近藤さんもこの8月には76歳となりますが、エネルギッシュな活動は衰えを感じさせません。インタビューはダルク32年の歴史を踏まえ、栗原センター長にも話に絡んでもらいながら縦横無尽に語ってもらいました。今後1年間の長期連載の予定です。ご期待ください。(司会進行&文責・広報部)

近藤さんと鹿島ダルクフォーラムで初対面

——まず近藤さんと栗原センター長との出会いからうかがいます。栗原センター長がダルクの存在を知ったのは、7回目の刑務所務の時だと聞いていますが…。

栗原 いや、その前だね。記憶が定かじゃないんだけど、6回目の受刑生活を終えてシャバに出たんだが、アルコールと覚醒剤による幻覚妄想がひどくてね。薬をもすがる状態だった。で、どういう経緯か忘れたけど、ダルクのパフレットをもらってね、当時ダルクは浅草辺りにあったんじゃないかな、そこを訪ねたことがある。確か2段バットがあつ

て、とても狭苦しい部屋って感じでね、「ここは俺の来るところではないぞ」と。まだ「底つき」していなかったんだな、なんで、その時にはダルクに繋がることはなかった。

——具体的に栗原センター長が近藤さんと会ったのはいつ頃ですか？

栗原 その後何年か経って、私が最後(7回目)の刑務所務めを終えて鹿島ダルクに繋がった後、確か鹿島ダルクのフォーラムじゃなかったですかね？

近藤 その前にも会ってなかった？

栗原 もしかして茨城ダルクのフォーラムでお見掛けしたかもしれません。でも、こちらは新参者で、とても声を掛ける勇気なんてなかった。直接、言葉を交わすことはなかったです。何しろ、当時の私には雲の上のような存在でしたから(笑)。私のスポンサーであるトムさん(現、渋谷ダルク理事)を通じて、ダルクには凄い人がいるんだ、とは聞いていました。

近藤 凄い人？ そうね、いろんな意味で凄いかもしれない。何しろ過去が過去だから。

栗原 私は7回目の逮捕の時に、姪を通じて浅草にあった当時の日本ダルクに「手助けしてほしい」と手紙を出したんです。本音は、ダルクと繋がれば罪が軽くなることを期待してね。そしたら、すぐにトムさんから拘置所に手紙が来た。トムさんは当時スタッフ研修生で、手紙を書く担当だったらいいんですが、とにかくすぐに返事が来るのには驚いた。私は幻覚幻聴に苦しんでいましたから、何とか治す方法を教えてもらおうと思ったんだけど、期待する内容ではなかった。で3、4回文通したけれど、そこで下獄となり、途絶えてしまいました。

近藤 そう、あの頃は日本ダルクは浅草にあったんだな、寿町にな。

いきなり「ダルクの理念を知っているか？」

— それで、茨城ダルクや鹿島ダルクのフォーラムで、栗原センター長は「ダルクをつくった人」として近藤さんにどんな印象を持ちましたか？

栗原 オーラとまではいかないけど、一種独特の雰囲気を出していたね。「おお、この人があの近藤さんか」と。私がそれまで出会った社会人のなかにはいないタイプという印象でした。不思議なカリスマ性というか、宗教家のような独特の魅力を感じさせました。

— 当時、近藤さんの本は読んでいましたか？

栗原 読んでいたよ。「薬物依存・回復のための12章」ね。その前にも赤本(「なぜ、私たちはダルクにいるのか」)にも衝撃を受けた。あの本で「薬物依存は病気なんだ」ということを教えられた。なにしろ自分が苦しんできた体験が、同じようにリアルに書かれてあったので、「これだ！」って腑に落ちました。

— 具体的に近藤さんと面識を持たれるのは潮騒の名前変更のところですかね？

栗原 いや、一番最初は「鹿嶋潮騒ダルク」を立ち上げる時でね。2005年の初冬だったかな。日本ダルクを訪ねました。そしたら、いきなり私に「ダルクの理念を知っているか？」と聞くんです。ダルクを始めることを前提に、何か具体的なアドバイスを貰えると期待していたんで、あれには面食らいました。「ダルクの理念…、う～ん、これには参ったな」と。うまく答えられず、口ごもったことを覚えています。

— それで、近藤さんは何て答えたんですか？

近藤 覚えてないな。

栗原 近藤さんはこうおっしゃったんです。仲間の一人として、依存症の仲間の回復を手助けすること。仲間と一緒にやめ続ける歩みをする。そして仲間を社会に送り出すこと。これが大事な理念なんだ、と。他に来客があったらしくて、待っている時間がとても長くてね、人を待たして平気な人なんだ、とも思いましたけど(笑)。実際、話をしたのはわずかな時間で、エッ、それだけ…って感じでした(笑)。

名前にこだわらないで先を見通したらいい

近藤 俺、そんな事言ったか？

栗原 言いましたよ。でも振り返ってみるとあの言葉に

は、その後の潮騒の方向性を占う予兆みたいなものが含まれていました。今では潮騒の得意分野になっている、就労支援について特化していく流れのね。それを象徴する施設名を変更することもそうです。

— じゃあ、本格的に近藤さんにアドバイスを受けるのは、その潮騒の名称問題の時ですか？

栗原 そうだね。鹿嶋市役所前のアパートの一室を借りて「鹿嶋潮騒ダルク」を名乗って活動をスタートさせたものの、なかなかうまく行かなかった。でも、何とか持ちこたえて、やっと光が当たり始めた矢先、私からすれば一方的に「栗原にはダルクを名乗らせるな」という外圧が一部のダルクから激しくなって、四面楚歌というか八方塞がりみたいになってしまっ…。それで、どうしたものかと悩んだ挙句、思い切って近藤さんに相談に行ったんです。

— 確か、栗原センター長が鹿嶋ダルクから飛び出して独立する際に、ポタンの掛け違いから、批判を含め強い逆風に晒された時期ですね。具体的には近藤さんから、どんなアドバイスを受けたんですか？

栗原 ダルクという名前にこだわらないで先を見通したらいい、と。ダルクも増えてきたから、これからは「出口」問題が避けて通れなくなる。いっそ就労支援に特化した施設づくりをしたらどうか、それに相応しいジョブトレーニングセンターという考えもある。そんな答えでした。

近藤 俺からすれば、施設の名前の問題なんてどうでもいいと思った。要は中身だからね。それにダルクは登録商標じゃない。名前にこだわるより、中身で勝負したらいい、と。まあ、結果論だけど潮騒は結果が出ている訳だから、我ながら、あの発想は良かったなと思っている(笑)。

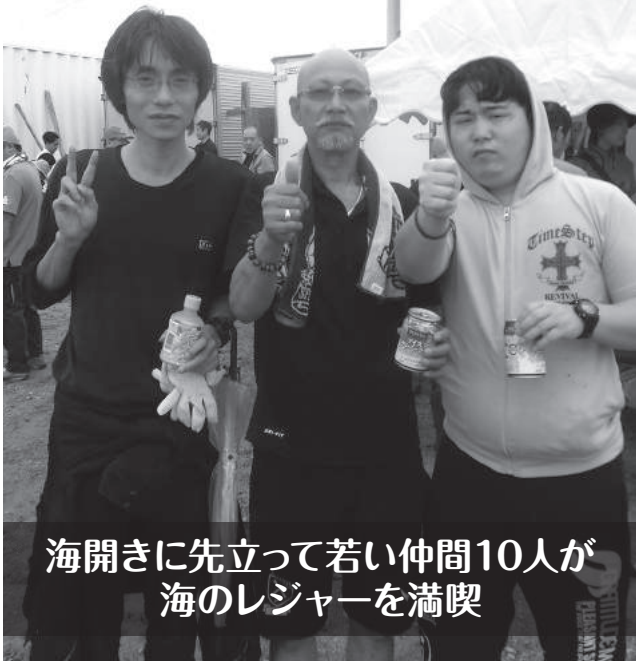
ダルクは特定の人物の所有物ではない

— ダルクもいろんな個性あるリーダーが育っていますけど、その分個性がぶつかり合う場面が出てきますよね。表現は良くないですが、入寮者の取り合いだって生まれかねない。そんな難しい時代になって来ました。潮騒の名称問題は近藤さんにとって、想定内でしたか？

近藤 想定内だね。もともとダルクは消防署みたいなもので、火事がなくても消防署はある。ダルクだって同じ。依存症で苦しんでいる人達が数多く潜在しているんだから、あちこちにあっていい訳だ。地域にあつてこそ役立つ。まあ、守備範囲を考えてバランスよくつくるのが理想だろうけど。でも日本では自助グループがなかなか普及していかないから、これが出来るためにも先行してダルクが地域にたくさんあつた方がいい。(次号に続く)

地の利を
生かす

海プログラム

海開きに先立って若い仲間10人が
海のレジャーを満喫

潮騒JTCの夏の風物詩として定着している、夏季限定の「海プログラム」シーズンがやって来ました。太平洋(鹿島灘)を臨む地の利に恵まれている潮騒JTCでは、年間を通してサーフィンや釣りなど従来から海プログラムを充実させています。元民宿だった下津ナイトケア施設から下津海水浴場までは距離が近いだけに、夏本番ともなれば毎年、若い世代を中心に海水浴プログラムが人気です。また鹿嶋市は内陸部には北浦があり、こちらも釣りのメッカなので淡水魚も楽しめます。依存症を知らないと「なんだ、遊びのプログラムじゃないか?」と思われるかもしれませんが、クスリやアルコール、ギャンブルなど病的な依存ではなく、海という自然の中で健全に“遊ぶ”ことができるようになることは、入寮者にとって回復の第一歩です。

このところ潮騒では高齢入寮者が急増していることから、これらの人たちの健康管理に配慮していますが、夏場は戸外での活動はもちろん室内でも熱中症への警戒を怠れません。本来なら「海プログラム」も真夏のギラギラした太陽の下で、入寮者全員が海のレジャーを楽しめるイベントにしたいところですが、トラブルや予期せぬ事故を考えると以前のように車で遠出したり、内陸部にあるダルクのように海の家を一軒借り切った形での取り組みは残念ながら困難です。それでも希望者ができるだけ海水浴を楽しめる日程を組んだり、バーベキュー大会と組み合わせたりして最盛期の海プログラムを盛り上げを図る計画です。

今年は梅雨明け前から猛暑が続き、潮騒では7月15日の海開きを待たずにひと足早く海プログラムをスタートさせました。初日は20~30歳代の若手入寮者ら約10人が参加し、まだ冷たさを感じさせる海に入って荒ぶる波と戯れたり、ボディボードで波乗りを楽しんだりしました。海には入らないものの、海風に当たって海水浴気分を味わう仲間もいました。昨年は中高年世代も参加して相撲やスイカ割り、海中でのプロレスごっこなど海のレジャーを満喫しただけに、今年も若い仲間が海プログラムを心待ちにしていたようです。

初日に参加したジョーさんは「海がすぐ近くにある潮騒は夏場には海水浴を満喫できるので、若い仲間にも人気です。7、8月は何回か海プログラムの日が組まれるので、私も若い仲間と一緒に海のレジャーを満喫したいです。潮騒には入れ墨の人達がいるので周囲からは浮いてしまう場面もあるけど、やはり真夏の海水浴は開放感に浸れるので格別です」と話していました。

下津海水浴場は隣の平井海水浴場と比べると比較的小じんまりした海水浴場ですが、地元の人達には利用しやすい穴場として根強く支持されています。約300台分の駐車場があり、透き通った海水ときれいな砂浜、遠浅で泳ぎやすいトリピーターには評判です。防波堤の石段を下りるとすぐに海に入れるので、県外の海水浴客やサーフィン愛好者にも広く支持されています。またサーフィン向きの波があり、1年を通して首都圏のサーファーにも人気です。(み)



ビーチクリーン行事で 下津海水浴場が綺麗に



鹿島灘を臨み良質の海水浴場が点在する鹿嶋市海岸部の清掃を、多くの市内団体や市民ボランティアが参加して同時に行う「鹿嶋市海岸一斉清掃」が7月5日にあり、潮騒JTCの仲間たちも参加して近場のホームともいえる下津海水浴場をきれいにしました。潮騒の仲間達は軍手をはめビニール袋を手に、他団体の皆さんと一緒に砂浜や草原に落ちている木くずやペットボトル、ガラスの瓶、破れた網の切れ端などを熱心に拾い集めました。午前8時から約1時間半の清掃作業で、鹿嶋市宮津台の施設本部に近い下津海水浴場が、見違えるようにすっかり綺麗になりました。

この催しは海開きを前にした大規模なビーチクリーン・イベントとして定着しており、鹿嶋市や新日鐵住金鹿島製鐵所、鹿嶋市観光協会、鹿嶋青年会議所、鹿嶋の海岸を守る会などの主催で実施されました。市内の各種団体、企業、行政、市民らが参加して、下津海水浴場や平井海水浴場など鹿島灘に面した市内7カ所の海岸を一斉清掃する恒例の取り組みです。毎年2000人を超える市民や各種団体のメンバーらが参加します。潮騒では地域貢献活動として数年前から同イベントに参加、熱心に取り組んでいます。(トム)



下馬三者合同施設見学会の 40人が視察研修で来訪



地元の青少年委員会、日本赤十字社、社会福祉協議会の関係者による世田谷区下馬三者合同施設見学会の一行約40人が6月21日、視察研修のために鹿嶋市宮中の潮騒アディクション会館を訪れ、潮騒JTCに関するDVDの上映や栗原センター長による説明を受け、潮騒の活動に理解を深めて頂きました。一行は大半が女性で年配者が多く、潮騒での滞在時間は一時間半ほどでしたが、従来の福祉活動の枠に囚われない依存症の回復支援活動に興味をもたれた様子で、参加者からは熱心な質問もありました。

視察研修は予定より少し早く午前10時過ぎにスタートしました。映像では、複合的な障害を持つ若い入寮者が仲間達の介助により前向きに変化していく様子を捉えたTBSテレビ「報道特集」をはじめ、潮騒食堂「おらげのかまど」で流している農業隊のスライド映像、さらに踊りパフォーマンスで盛り上がった昨年の潮騒フォーラム映像を視聴して頂きました。各地のダルクとは一味異なる潮騒独自の就労支援活動や、6次産業化を目指して力を入れる潮騒農業の取り組みに、来訪者の皆さんは新鮮な印象を抱かれた様子でした。

この後、栗原センターが自身の回復の歩みを交えながら、依存症やその回復支援について短く講話しました。センター長は自分の体験から60歳からでも回復が可能なことや潮騒を立ち上げた経緯、自分が妄想として思い描く「しおさいアディクション・ビレッジ(=潮騒依存症村)」構想などについて話し、途中、参加者から笑い声も出て良い雰囲気でした。

質疑では「入寮者の皆さんはどのような経緯で潮騒に来るのか」「実際に社会復帰した人は何人ぐらいいるのか」などがあり、栗原センター長が「依存症は生涯治療の息の長い取り組みと、何度でも失敗を認める寛容な立場が必要」などと回復の難しさを訴えました。



5年後を目途に社会福祉法人施設の建設を誓う

茨城ダルク25周年フォーラムで岩井代表が明かす

同じ茨城県内にあり、先輩施設として確固たる地位を築いている薬物依存症の民間リハビリ施設「茨城ダルク・今日一日ハウス」(岩井喜代仁代表)が7月16日、地元の結城市民センター・アクロスで25周年フォーラムを開きました。ダルクフォーラムは普段なかなか会えない仲間と再会できる場とあって、この日も会場(小ホール定員370人)を大幅にあふれる参加者があり、四半世紀の歴史を刻む茨城ダルクの影響力をうかがわせました。鹿嶋の地で同じような活動をする立場からも開所25年の歩みは学ぶべき道標であり、大きな励みになりました。今回も潮騒の仲間達が足を運び、勇壮な和太鼓演奏などで刺激を受けたほか、今年11月23日に地元鹿嶋市で開く潮騒12周年フォーラムに向けて大いに参考となる中身でした。

この日のフォーラムは、開会行事で県精神保健福祉センター長や全国薬物依存症者家族会連合会(通称・薬家連)理事長らによる来賓挨拶のあと、入寮者の回復メッセージがありました。引き続き茨城・栃木両県にある関連施設、女性シェルターメンバーによるエイサー(琉球太鼓)の演奏で会場を沸かせました。午前の部の締め括りには、茨城ダルクに和太鼓を定着させるきっかけをつくった愛泉童子太鼓の子供たちが大人顔負けの優れたパフォーマンスを見せ、節目のフォーラムに花を添えました。

午後の部は磐梯ダルクの少数精鋭による和太鼓演奏で始まり、メイン企画のシンポジウム「ダルクの現状について」に移りました。岩井代表がコーディネーター役を務め、シンポジストには日本ダルクの近藤恒夫さんとともに茨城ダルクから巣立った仙台ダルクの飯室勉さん、栃木ダルクの栗坪千明さんの3人が、予め会場の参加者から寄せられた質問に答える形で意見を述べ合いました。この日は家族会の関係者の参加が目立ったこともあり、家族の関心事が伺える質問が目立ったほか、近藤さんからは今後のダルクの方向性を示す示唆に富む意見も述べられ、潮騒にとっても施設運営面でヒントを頂くことができました。

引き続きフォーラムは、茨城ダルク男性メンバー喜組による勇壮な和太鼓演奏で会場の盛り上がりが高潮となり、メンバーの交代が激しい中で熱心に練習に励んだ成果が発揮され、アンコールの声が掛かるなど会場から大きな拍手が送られました。フォーラム締め括りでは、古希を迎えた岩井さんが謝辞となる講話に立ち、25周年の歩みをしみじみと振り返りながら、悲願ともいえる残された最大課題にチャレンジする決意を披露しました。岩井さんは「自分の最後の仕事」と強調して5年後を目途に、既に法人格を得て久しい「社会福祉法人・茨城ダルクセンター」の建物を茨城ダルクの現在地に建設することを、この日のフォーラムの最後に誓いました。



女性ハウス

「るみの家」

家族との面会プログラム

女性ハウス「るみの家」で6月4日、家族との面会プログラムがありました。以下は、家族と向き合った当事者の女性メンバーの感想です。

なあな 感想文

とても充実した楽しくて幸せな3時間だった

6月は施設長の計らいで、自由に面会出来る月でした。私は、この日を楽しみに待っていました。早々と会いに来てくれた両親に感謝をしました。私の家には年老いた愛犬がいるので「もしかしたら来れないかも…」と不安を抱いていましたが、来てくれました。当日はもう一人の仲間も面会だったので、2人で入り口の所で待機しワクワク、ドキドキ。私の親は待つこと30分位して施設に到着しました。久しぶりに逢う両親。少し照れくさかったです。私の車の乗る場所は決まっています。パパの隣、助手席です！

相変わらずそこに座り道案内しながら、食事をしました。

料理が来るまで沢山話しました。1番話したことは、「今スタッフをやっているよ!」と失敗談やスタッフの役割などを説明しました。嬉しそうに、少し不安そうにママは話を聞いてくれていました。写真を撮ったりもしました。ママとパパと横に並んで写真を撮る日が来るなんて、今までは思ってもみなかったです。その写真を見ながら「私は本当にパパ似だなあ」と思いました。パパには父の日のプレゼントを、弟には誕生日のプレゼントを用意しておいたので渡しました。ママには買い物に行き、そこで選んでもらって、お茶碗をプレゼントしました。とても喜んでくれて嬉しかったです。これからまた頑張ろう!!と思える1日でした。

みく 感想文

「自分のために使いなさいよ」と娘に小遣いをあげた

梅雨入り前の晴れ間に、娘と孫2人と面会できました。何しろ孫2人(2歳半の男の子、1歳の女の子)を乗せて高速道路を使って来てくれるので、雨だと運転が大変ら

しく、毎日天気予報と睨めっこをしていたそうです。「梅雨に入ってしまったら来られないかも」と言っていたので、本当にラッキーでした。施設までは1時間掛かるだけに、本当に有り難いと思いました。去年の家族会では施設長がラインを送っていたのですが、どうも決心がつかなかったようで、私も諦めていました。アル中の自分を鬼と見ていた娘、傷つけて苦しませて、「来てくれるわけ無いなあ」と思っていたら、前日に施設長にラインが入って「来てくれる!」というのです。諦めていた私には最後の最後にどんでん返し、嬉しくて思わず仲間とハグしちゃいました。あれから1年。孫2人は凄く成長していて驚きました。娘は姑と上手くいってないようで別居しています。「付かず離れずがいいね」と私はアドバイスしました。

かつての私は姑と上手くいなくて苦勞してきたので、積もる話もたくさんあったけど、時間が無いと言うことで昼食を食べ(もちろん奢ってあげて)少ないけどお金を渡して、「自分のために使いなさいよ」と言いました。孫は他の叔父や叔母からお小遣いを貰えるけど、娘には「このお金は自分で使いなさい。子育て、家事、ストレスも溜まるから、好きな物を買ったり食べたりしなさいよ!」と助言して別れました。私の作ったカゴバックも凄く気に入ってくれて嬉しかった。「今日のような日があったらまた来てくれるかなあ?」と問い掛けたら「来るよ!」と言って来て、本当に有り難いと思いました。これからもステップ、プログラムをさらに頑張って娘達を安心させたいと思います。

めい 感想文

両親に「生んでくれて、育ててくれてありがとう」

両親が4カ月ぶりに会いに来てくれました。私は前日から興奮し、余り眠れず当日を迎えました。約束の時間を少し遅れて到着した両親の顔に笑顔を確認し、私も自然と笑顔になりました。食事に向かう車の中でもレストラン内でも、会っていなかった期間のお互いの近況報告を合いました。母の声が穏やかでとても心地良いもので、私の話を聞いているときの父の顔から愛を感じました。母の日父の日が近かったのでメッセージカードを送りました。「生んでくれてありがとう」「育ててくれてありがとう」。その言葉を声に出してカードを渡しました。照れながらも嬉しそうに受け取ってくれました。その言葉を私が言うなんて…、ココに繋がったときの私には考えられませんでした。ココに引き寄せられた事、今では感謝しています。次はフォーラムで会えることを楽しみに日々、努力していきたいと思います。素晴らしい1日をありがとう。

受刑者からの手紙

私は将来依存症を治す立場になる事を目標としている

私は薬物依存症からの回復を目指していますので、今回「潮騒ジョブトレーニングセンター」様に興味があります。今回の逮捕は自分で薬物の使用を我慢出来なかった為であり、単なる自業自得なのですが、やはりとても悔しい思いでいます。今回逮捕されて懲役に行ってみて、自分は“覚醒剤ではない”と思っていたのですが、やはり認めざるを得なくて頑張ってみました。判決を受けた時に、納得のいかない内容でしたから、控訴する予定です。

私はいつの日か依存症を治す立場になる事を目標としています。公判で「1年前の薬物使用に禁断症状があるのですか?」と検察側から愚問を受けましたが、“全ての薬物は1度使用したらその時から一生、毎日止め続ける必要がある”、と学びました。残念ながら懲役が確定していますので、潮騒ジョブへ通う事が出来ませんが、いつの日か外の世界に出たら、力をお借りしようと思っています。現状の費用等のシステム等を教えて頂けたら、と思っていますので、宜しければ資料等を送って下さい。

(東京都 A・Y)

社会復帰後の仕事を考えれば丁度良い体慣らしに

いつもお手紙を有難う御座います。私は社会復帰目指して、日々精進して頑張っ
て生活しております。今年になって“覚醒
剤離脱教育”を受けたり、転役による構外
作業で造林工場に行っ、伐採の仕事
を毎日行っております。肉体的に大変な仕
事ですが、社会復帰後の仕事を考えれば
“丁度良い体慣らし”だと思っております。
身体も慣れ、すっかり体力もついたので、
いつ社会に出ても直ぐに仕事出来る、
と思います。まあ、私には仕事ばかりでは
なく、一番大切な「覚醒剤離脱の件」が
残っていますので、その時には色々と御指
導、宜しく願い致します。今は早く帰る
事は難しいかも知れませんが、そう遠く
ない時期に社会復帰出来るかと思いま
す。もう少しですので、今の気持ちを大切
に、頑張っていきます。では、社会復帰
後、宜しく願い致します。

(北海道 M・H)

務めが終わって出所したらシゲさんに一度会いたい

シゲさん、お元気ですか? 私の事を覚えて居ますか? T署に收容されていたFです。やっと裁判も終わり、身柄もT拘置所に移送されました。判決的には自分なりに良かった方だと思っています。まあ、最終の結果としてはこの手紙が届く頃には、刑期も確実に決まると思っています。その中でシゲさんには、お礼を言わなくてはいけない事があります。それは、シゲさんと私の手紙のやり取りが弁護士を通して、“自分が絶対、本当に覚醒剤などを止める気持ちを持っている事をシゲさんと約束した訳”です。そして勇気を頂きました。それが裁判官に通じた、と思っています。改めてお礼を申し上げます。代表の“栗原さんにも有難う御座います、と伝えたい位です”。

今回こうやって逮捕されて、以前勤めていた先の社長さんが身の回りのお世話をしてくれ、人の優しさがつくづく身に染み入ります。シゲさん、本当に人情というのは、良い物ですね。今回、務めが終わって出所したら、シゲさんには、一度お会いしたい、と思っております。そして、潮騒ジョブトレーニングセンターにも見学に行こう、と思っております。それまではシゲさんもくれぐれもお体には気を付けて下さい。たまにでいいですから、自分の事を思い出して下さいネ。『継続は力なり』ですよ。頑張りましょう。(茨城県 F・J)

広報部では、受刑者の皆さんへのメッセージになれば、との思いで編集制作に励んでいます。制度上からタイムラグは否めませんが、できるだけ濃密なコミュニケーションを取りたいと考えています。皆さんの生の声には施設の仲間が見失いがちの「大切な宝物」が秘められていると考えるからです。(潮)

私がナゼ薬物を止めたいのかを自問自答している

そちらからの手紙が届いて、自分の気持ちを確かめています。“止める”為の決意についてです。“無力さ”、本当にその通りだと思います。私も捕まって2年と一カ月。止めて2年と一カ月です。文中に書いている様に“無力だ、と認めて居ますので私は今、入り口に立っています”。「私も来年の四月位には…」と考えていて、色々振り返っています。“もうやらない”と気持ちを強く持っています。親にも反省と決意の便りを毎月書いています。

私の親も70歳です。何とか元気でいてくれる様です。昨年中送って頂いた「どっこい生きてます!」を読んでます。“受刑者の手紙”を読んでいても“皆が自分と向き合い、自分の人生をやり直す為、努力して居るのだ”と感じられます。そして私が考えているのはこれからの自分の人生です。以前に「ユタカ vs. トム 対談」を読んで出会いやキッカケの大切さが良く分かりました。私も4月で41歳になりました。社会に戻ってからの事を考えてみて、「やろうと思えばいつでも買える、いつでも打てる」と考えてしまっ、どうしたものか?と思っています。“毎日戦い続ける”と云う決意はあります。「止めるぞ必ず!! 止めてやる!!!」と思って生活しています。

少し前の「どっこい生きてます!」中の「81歳の薬中サカ」の文を再び読んで思ったのは、“昔の様に疲労回復、強壮剤”として広く出回ったりすると、また昔の様に直ぐにやって仕舞うのかな、規制が緩くなればやって仕舞うのかな、とも考えています。罰金だけで済むなら。そこで私がナゼ薬物を止めたいのか、を考えて自問自答して居ます。①人に信用して欲しい。②家族と生活がしたい。③生きたい—と言う気持ちです。サカの哲学。「シャブを知らないのも人生やけど、知って楽しく生きるのも人生や」の文を読んで私流の哲学を考えました。“止めて生きるのが人生だ、続ける物は大馬鹿者だ”。私は私のブレーキ役と共に生きていく、再び塀の中に戻る事は無い残りの人生をクスリ無しで歩いていく、と決めた”。これが薬物依存症だと認めた私自身の決意です。潮騒と出会い、自身と向き合えた事に喜びを感じて居ます。本当に有難う御座います。(長崎県 F・T)

今まで DARC の悪い噂ばかり耳にして懐疑的だった

覚醒剤取締法違反の罪でY刑務所に収監されて居ます。今回、同室の仲間から潮騒ジョブトレーニングセンターの活動や栗原様、皆様の人柄や様々なエピソードを聞かせて頂きました。私は覚醒剤で服役するのは3度目に成りますが、今までDARCやそうした団体の悪い面の噂ばかり耳にしてきてしまい、懐疑的になっていました。そこへ仲間から、皆様の活動を聞く機会を得る事が出来たのです。

私は今年45歳に成ります。もういい加減にしないといけないのは重々分かっていますが、この有様です。今は、1日も早く社会復帰したいと経理工場にて頑張っていますが、来年秋に社会に出た後の生活に不安が有ります。話を聞く内に“出来れば潮騒ジョブさんのお世話になれないものか?”と考える様になりました。つきましては、より詳しく新しい情報が欲しいのです。

そこで、大変不躰なお願いかとは存じますが、「潮騒通信 どっこい生きてます」を送って頂けないでしょうか? どうか宜しく願い致します。所内でも、“覚醒剤離脱教育”は今後受ける事になっていますが、出来れば出所後も自助グループなり参加する方向でいきたい、と思っています。ご相談に乗って頂ければ幸いです。

いきなりお願いばかりで恐縮ですが、宜しく願い致します。最後に成りますが、皆様の健康とご活躍をお祈り致します。
(神奈川県 O・J)

しおさい、俳壇

7月のお題 **夏休み**

選者 **桐本石見**

わが俳句人生の歩み・No.42

センター長 **栗原豊**

引き続き、姪からの手紙——。

「先に書いたように私は失職して無職の日々なので毎日、洗濯や掃除、炊事などをして過ごしています。油だらけだった換気扇を洗ったり、毛布を洗ったり、今までできなかった事を一つひとつ片付けています。綺麗になった部屋は気持ちいいですね。クスリをやっている時、最初は掃除が楽しくて一日中していてもまったく飽きなくて何日も続けられたのですが、だんだんそれもできなくなってしまい、最後には何もする気力がなくなり、恐ろしいほど汚い部屋になってしまいました。その中で独りひっそりとクスリをやるようになっていた自分がいました。静かにしていないと怖くて、誰かの影がベランダで動いている気がして、ひどく怯えていました。幻聴や幻覚がひどくなり、ずっと布団の中に隠れていました。痩せていたので布団と同じようにペタンコに平に寝て、息を殺して部屋に誰もいない風を装っていました。

そんな事を思い出すと、今私がしらふで掃除ができていのは本当に奇跡的な事だなと思います。ユタカさんの手紙にも書いてあったけど、やめている期間をいくら開けていたとしても、再びクスリをやっ飛ばせば元の最悪の状態に戻るというのは、みんなに当てはまる共通の症状のようです。私もそうでした。最後にクスリをやった時、その前は2年間もやっていなかったのですが、やはりベランダや窓の外に人の気配を感じて、布団から出られなくなってしまいました。たった一回しかやっていないのに、そうになってしまうのです。それに身体が前のようにクスリに慣れていなかったのでダメージが大きく、立ち上がってもすぐに倒れてしまう有り様でした。あの状態でお風呂に入ったり、お酒を飲んだりすると、心臓が止まるのだから、とと思いました。

そんな私が今、生きているのは奇跡的な事なのだから、これ以上多くは望まなくていいんじゃないか…、と自分に言い聞かせています。でも、『欲』というものはどんどん出て来るものですね。あれも欲しい、これも欲しい、ああなりたい、こうなりたい…と欲望が尽きる事はありません。そして焦って空振りをしてしまいます。きっと私の就職もそうで、ずっと空回りしているような感じです。次こそ本当の意味で自分に合った仕事を見つけて、無理しない程度にやっ飛ばそうと思います。」

私は掛け値なしに姪の正直さに脱帽した。ああ、いい回復をしているなあと考えた。こんなにも謙虚に自分に向き合える姪なら、時間を掛ければきっと相応しい仕事が見つかると思い、さっそく励ましの手紙を堀の中から送った。(次号に続く)

川柳：嬉しさは優しさにして人に分け／夢覚めてもとの鰥夫(やもお)と鉄格子

※鰥夫=老いて妻のない男、男やもめ

肝試し戻る夏夜の白き影

ゆうこ

肝試しやお化け屋敷は夏に行うが、俳句の季語としては無いので「夏夜」を入れました。私の子供の頃の田舎では寺の墓へ行く肝試しがあった。怖いと思うと木の影も人も遠くの灯も幽霊などに見える。また夜道に出会う長髪の女の人も怖いと子供の頃の思い出があり、懐かしい句です。

特選句

夏休み孫子連れての三ツ峠

くそじし

三ツ峠は山梨県都留市、川口湖町にまたがる標高一七八五メートルの山で峠ではないが、山頂近くに水が湧くので水峠、また木無、御巢鷹、開運の三山の総称でもある。奈良時代は修験道、江戸時代に善応空胎上人により開山されたと言う。富士山や南アルプスが一望出来る、孫子の声も聞こえる明るい句です。

特選句

夏休み帰る家なく一人かな

みく

夏休みの目的は避暑、課外勉強、昔の敷入り、盆など勘案し明治時代に定められた。その夏休みには多くの人が盆の墓参りなど兼ねて帰省するが、夫々の事情により故郷の家も無い人が多い。私の実家も廃れ縁者も遠く、もう何年も帰省してない、故郷を懐かしく思うと共にしみじみした句です。

特選句



今月の秀逸句

夏休みハワイへ行けずアロハシャツ

くねんぼう

アロハシャツは日本人がハワイへ移民した時の着物を仕立て直した開襟シャツであったとされる。アロハはハワイ語で、好意、愛情、慈悲などの意がある。その後京都などから絵柄色彩の多い生地を取り寄せて広まり、正装にもなり一九三七年には商標登録されたとも。ハワイを思いながらの夏休みもまた、良いかも知れません。

縁日や親子で味はふかき氷

こば

縁日は神仏の降誕、示現、誓願などの日で神社仏閣で儀式があり、高名な所では出店などで賑わう。例えば、弘法大師は二十一日、天神様は二十五日など。何処の縁日だろうか、親子でのかき氷も懐かしい句です。

夏休み昼の盛りの田草取り

あべ

今では除草剤など使うが、それでも稗や大きな草を取るのを見掛ける、私の中学生の頃は草取機を押すのが手伝いでもあった。一、二枚の田を草取りして海へ栄螺(さざえ)など獲りに行くのが楽しみでもあった。昔は暑い中の大変な仕事で、父母を偲ぶ句でもあります。

夏休み孫待ちわびる老夫婦

しげ

日本は年々高齢者社会になり、ことに田舎では過疎化も進み村が維持出来ない所もある。息子の住む都会への転居もあるが、住み慣れた処が良いのと子らに迷惑を掛けたくない思いで田舎に住む。それでも元気な内は夏や正月に孫の顔を見るのが何よりの楽しみ。一抹の哀れを込めた句でもあります。

激戦の水鉄砲や終戦日

くり

昭和二十年八月十五日ポツダム宣言を受託した日が終戦日。それから七十余年、今では世界に平和と経済を貢献出来る程に復興した。子供の水遊びの水鉄砲か、それを眺めながら平和の有難さと戦後の生きた年日を顧みる句で、私も遺児として諸々の思いがあります。

夏休み幼き日々の宝物

まこ

人には夫々に宝物や大事な物がありますが、子供の日の思い出や故郷は金銭に代え難いものがあります。年日を重ねて顧みる時、懐かしさと共に今の自分の在り方を問う思いもあります。月日は川の水の様に帰らぬもの故に、今を大事に生きて一つでも宝物を得たいものです。

佳作

子供等の虫取り合戦夏休み	みく	海・山は人で賑はふ夏休み	くま
夏休みひまわりの花背比べ	いるか	夏休み朝の散歩でダイエット	まり
夏休み指折り数え子の日かな	れいこ	夏休み待てず密かに川泳ぎ	おの
日焼けせる肌の懐かし夏休み	めい	高原へ涼を求めて夏休み	ひろ
宿題を子らが慌てる夏休み	チャコ	仮病して一日だけの夏休み	トモユキ
楽しいな子供と過ごす夏休み	ゆめ	懐かしき隅田の花火夏休み	こば
心待つ夏の休みの母の盆	しま	夏休み土産一つの里帰り	しげ

どっこい

私も生きてます～我が回復記～「ブーちゃんの回復記」

第8回

叔父にサラ金の借金 80 万円を肩代わりして貰うことに

新天地で心機一転を目指した4カ月弱の北海道への逃避行は結局、失敗に終わりました。1996年春のことです。僕は東京に戻って、裏切り続けた叔父にまたもや頭を下げ、叔父の中華料理店で働くことになりました。サラ金からの200万円の借金は、叔父への申し訳なさからコツコツ働いて毎月給料から数万円を支払い続け、元金を80万円まで減らしました。サラ金は少しでも支払い期間が遅いと容赦なく督促の電話を掛けてきましたが、一人暮らしの僕は店の定休日には人目を気にせず飲酒を続けていました。叔父の店は僕にそれほど高い給料を出せなかったので定休日にはコンビニでバイトし、朝はマックでも働いて、これで得た収入を飲み代に充てていました。

なんとか叔父の店から貰う収入で元金が減るように努力する生活のなか、僕は給料から毎月2万5千円を天引きされて、店の寮という形で家賃5万円のアパートに住むようになりました。その頃は朝から飲んでいても、きちんと三食の食事ができていましたし、仕事にも支障をきたすことはありませんでした。実はその頃、僕は店の同僚だった女性と恋仲になり、同棲を始めていたのです。彼女には正直に借金の件も打ち明けました。「頑張ってるって返せばいいじゃん」。そう言って初めは応援してくれていた彼女でしたが、そのうちに「完済はいつなの?」「いつになれば2LDKのマンションに住めるの?」などと責めるような口ぶりになっていきました。若気の至りというには余りにも身勝手ですが、その時は飲んだ勢いもあり「じゃあ別れよう!」と一気に彼女との関係は破談に向かってしまいました。

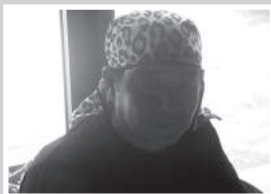
彼女との結婚を考えていた僕は、一方的に裏切られた気分になり、その晩からやけ酒に走りまわりました。あまり記憶がないのですが、その日暴れて警察署に保護されて母親と叔父が迎えに来てくれました。悪酔いの中、僕が迷惑を掛け続けた叔父が実姉である母親に「結局は俺の指導がダメだったのかな?」とつぶやいた声は今も耳に残っています。僕がしらふに戻ると、今後についての協議が始まり、「じゃあ、俺が借金を肩代わりするから…」。叔父は、当時中学生だったこの生命保険を解約して元金に当たる80数万円をつくり、そっくり僕に渡してくれたのです。「これで返しちやえ。これでもう電話がかかってくることはないんだな」。僕は叔父に念を押されました。「お前はすぐ、いっぱいいっぱいになっちゃうんだから、もう俺んとこの店じゃ無理だ。早く次の仕事を見つけれよ」。そう諭された自分が、ひどく情けなかったことを覚えています。返す言葉がなく、叔父の厚意に甘えるしかありませんでした。5万円ずつ16カ月で返済する約束をしました。そうして2000年9月、僕は神田の焼き鳥屋に向かいました…。トラブルメーカーの僕も既に30歳になろうとしていました。

(次号に続く)



7月のバースデー

きん



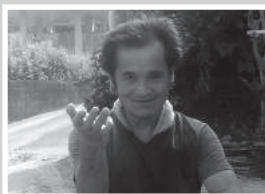
農業隊万歳!!

けんぼう



考え中

みぐ



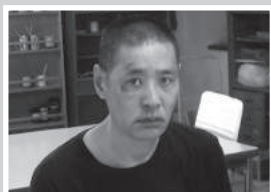
シャケナベイビー!!

いのき



玉をとりました。笑

しょう



今日一日

つか

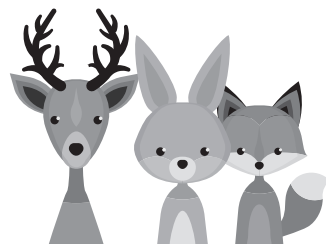


置かれた場所で咲きます。

つぎお



コバさん最高。



7月の行事予定

- 7月1・2日 AA館山グループフェローシップ
- 7月5日 鹿嶋市海岸一斉清掃
- 7月9・15日 秋元病院メッセージ
- 7月10日 潮騒夏季海プログラム開始
- 7月13日 潮騒俳句会
- 7月16日 茨城ダルク25周年フォーラム
- 7月23日 潮騒家族会
- 7月28日 美空野(みその)保育園夕涼み会
- 7月30日 アディクションセミナー
ピアサポ祭り

8月の行事予定

- 8月13・19日 秋元病院メッセージ
- 8月10日 潮騒俳句会
- 8月11日 下津バーベキュー
- 8月18日 潮騒夏祭り
- 8月27日 潮騒家族会

献金・献品を頂いた方 (7月15日現在)

- ・山本 邦夫 様
- ・金子 眞佐江 様
- ・大和ハウジング 様
- ・駒崎 初子 様
- ・タイヘイ 様
- ・堀江 三枝子 様
- ・安重 洋介 様
- ・野本 俊子 様
- ・松嶋 定雄・允子 様
- ・武藤 クニ子 様
- ・匿名希望 様
- ・土井 エンジン 様
- ・長谷川 トキ子 様
- ・恵子 様
- ・安藤 きみ子 様
- ・佐藤 寛 様
- ・石綿茂子 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございます。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただきます。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

昨年7月25日、未明の午前2時過ぎの事だ。トイレに起きると茶の間の電気がついている。のぞき込むと、妻がぐったりしていた。右手が上がらず、うまく呂律が回らないながらも「お父さん、私おかしいわ」とだけ口にした。それが最後の言葉だった。妻は予期せぬ脳幹出血で倒れ、急ぎ救急車で病院に運ばれて手当を受けたが、その夜10時過ぎには帰らぬ人となった▼あれから1年が過ぎた。僕の心の風景はすっかり様変わりし、時おり悔やむ場面が増えた。「何かしら予兆があったはずだ。どうして気づかなかつたのだろう…」「もう少し思いやりのある接し方をしていれば…」「添い添うると約束したのに一人先に逝ってしまうなんてずるいじゃないか」。遺影に向かって無言でそう語り掛け、信心の薄かった僕が線香をたき仏壇に手を合わせる日課がすっかり板についた▼でも唐突に妻を失ったショックは大きく、何をしても気がうせた。「俺はこんなにもヤワな人間だったのか…」と自分でも情けない感じた。ただ、目の前に重い知的障害(ダウン症)の長男がいるので、あれこれ悩む前にまず、長男の「生きる」を支えなければならない。それに手を抜けない家の雑事もある。目下、妻が生きがいとした自宅の庭(花畑)にびっしり生えた雑草との格闘が続いている▼それまで僕は、「人は死ねば死に切りさ。そこで人生はジ・エンド。すべてが終わる」と考えていた。なのに、いざ自分が掛け替えのない伴侶をなくす現実に遭遇して、その確信は偽物だと気づかされた。人の心は心身二元論や唯物論的に頭で割り切れるほど簡単なものではない。同じように死の受け入れも一筋縄ではいかないのが現実だ。人間の心や精神の在り様はとて複雑で、おあつらえ向きにはできていない▼僕らはいつの間にか近代合理主義の思考や行動に慣らされたような気がする。でも、よく考えれば世界は不合理や理不尽で満ち満ちており、とても理屈などでは太刀打ちできない部分がある。深い暗闇の森が支配する冷徹な現実にもっと素直に向き合ってもいいはずだ。その意味ではダルクや潮騒の秘めたるビジョンが参考になる。ダルクや潮騒には、これらを凌駕する精神の救済があるからだ▼よく口にするハイパーパワー(=自分を超越る存在、自分が信じる神)だが、これは特定の宗教ではない。依存症の回復を支える霊的なものへの畏怖と感謝である。僕には、草木一本まで神が宿るといふ、八百万の神がびったり来る。今では廃れてきたけれど、ご先祖様やお天道様を敬う日本の精神風土は、ダルクや潮騒の根幹をなす(肉体的な)死をも乗り越える「命のリレー」という優れたビジョンに繋がっている▼恐らく妻もあの世から「お父さん、頑張って私の分まで生きて」と鼓舞しているように思う。(市)

※お断り〜今月は紙面の関係で2017年企画「潮騒ジョブってどんな施設なの？」は休みました。

潮騒通信 どっこい生きてます! 2017年7号



Contents

- P 2 「言葉による恩恵(希望)と裏切り(絶望)について」
- P 3 医学生が依存症施設の回復支援活動に理解を深める
- P 4 近藤恒夫インタビュー 第1回
「ダルクは消防署と同じ、地域にあつてこそ役立つ」
- P 6 地の利を生かす「海プログラム」
- P 7 ビーチクリーン行事で下津海水浴場が綺麗に
下馬三者合同施設見学会の40人が視察研修で来訪
- P 8 茨城ダルク25周年フォーラム
- P 9 るみの家「家族との面会プログラム」
- P 10 受刑者からの手紙
- P 12 しおさい俳壇 7月のお題「夏休み」
- P 14 どっこい私も生きてます「ブーちゃんの回復記」第8回 / 7月のバースデイ
- P 15 行事予定 / 編集後記 / 献金・献品 / 目次

■ 編集・発行 :

特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム(中施設)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鉾田
〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

